

YPC HISTORY

SINCE 1967

Yokohama Port Corporation

横浜港埠頭株式会社の
あゆみ



横浜港埠頭株式会社
Yokohama Port Corporation

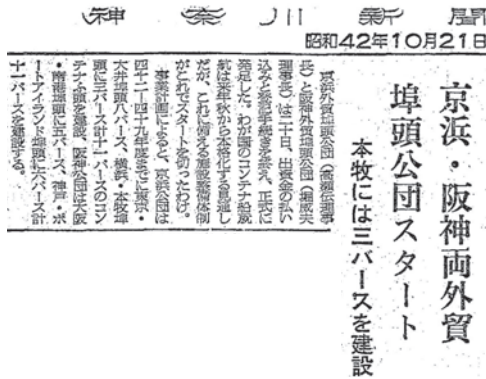
コンテナ物流の幕開け(1967~1974)

～外貿埠頭公団の誕生～

1960年代に入ってコンテナを利用した国際貨物輸送が世界的に普及し始め、我が国の主要港では相次いでコンテナターミナルの建設が進められました。首都圏でその役割を担ったのが当社の前身にあたる京浜外貿埠頭公団です。

1967(昭和42)年

京浜外貿埠頭公団 設立



1967年10月21日 神奈川新聞

1969(昭和44)年

- ・本牧A-8コンテナターミナル供用開始
- ・本牧A-7コンテナターミナル供用開始



供用開始後の本牧A突堤



埋立中の本牧ふ頭

1974(昭和49)年

本牧A-5コンテナターミナル供用開始



コンテナ船米州丸の荷役
／神奈川新聞社撮影



全面供用された本牧A突堤

1968(昭和43)年

フルコンテナ船第一船(サンファン号)本牧D突堤に入港



横浜みなと博物館提供

1970(昭和45)年

本牧A-6コンテナターミナル供用開始



本牧ふ頭のガントリークレーン



本牧ふ頭船員ストによる滞船状況／横浜みなと博物館提供



横浜みなと博物館提供

2

大黒ふ頭のオープン(1975~1981) ~ふ頭整備を進める公団~

海上出入貨物の増加やコンテナ化に対応するため、本牧ふ頭に続いて大黒ふ頭が埋め立てにより整備されました。大黒ふ頭は横浜港初の本格的な島式ふ頭で、京浜外貿埠頭公団はライナーおよびコンテナターミナルを次々と建設しました。

1977(昭和52)年

大黒L-1~4ライナーターミナル供用開始



大黒L-4ライナーターミナルで荷役中の船舶

1979(昭和54)年

- ・大黒 L-8ライナーターミナル供用開始
- ・大黒 C-1コンテナターミナル供用開始



大黒ふ頭から本牧ふ頭を望む



埋立初期の大黒ふ頭/横浜みなと博物館提供

1978(昭和53)年

大黒L-5~7ライナーターミナル供用開始



大黒L-5に停泊する貨物船/横浜みなと博物館提供(堀内利通氏撮影)

1981(昭和56)年

- ・財団法人横浜港埠頭公社 設立
- ・大黒 C-2コンテナターミナル供用開始



荷役中の船舶

3

コンテナ物流の発展(1982~2009) ～公団から公社へ～

1980年代に入り京浜外貿埠頭公団が解散し、新たに横浜港埠頭公社が設立されました。増加するコンテナ貨物に対応するため、公社では時代のニーズにあったコンテナターミナルを積極的に整備し、2001年には南本牧ふ頭で高規格コンテナターミナル(MC-1、2ターミナル)の供用を開始しました。

1982(昭和57)年

京浜外貿埠頭公団解散
財団法人横浜港埠頭公社が横浜港における業務を承継



飯泉安一初代理事長

1986(昭和61)年

本牧D-5コンテナターミナル供用開始



整備中の本牧D突堤／横浜みなと博物館提供

1990(平成2)年

環境整備基金事業開始



稚魚放流の様子

1984(昭和59)年

本牧D-4コンテナターミナル供用開始



本牧D突堤に停泊中のコンテナ船／横浜みなと博物館提供

1989(平成元)年

横浜ベイブリッジ開通



横浜ベイブリッジ開通式／神奈川新聞社撮影

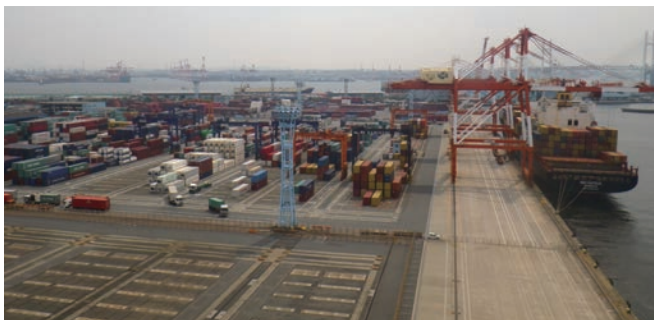
1991(平成3)年

建設発生土受入事業開始



1992(平成4)年

大黒C-3コンテナターミナル供用開始



1996(平成8)年

横浜港流通センター(Y-CC)オープン



Y-CC 提供

2002(平成14)年

大黒C-1ターミナルを自動車ターミナルへ転換

2005(平成17)年

本牧BCコンテナターミナル全面供用開始



1994(平成6)年

大黒C-4コンテナターミナル供用開始



2001(平成13)年

南本牧MC-1、2コンテナターミナル供用開始



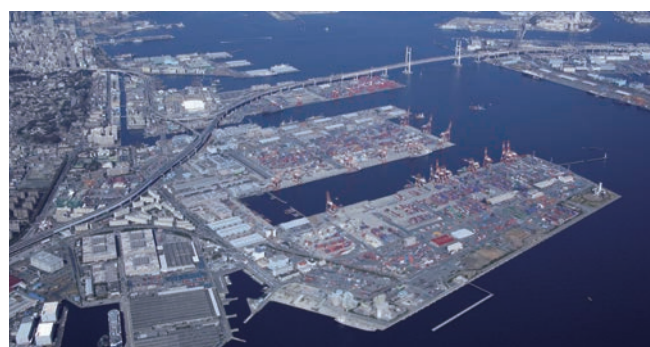
2003(平成15)年

大黒C-2ターミナルを自動車ターミナルへ転換



2007(平成19)年

横浜港の公共コンテナターミナルの管理開始(指定管理者)



横浜市港湾局提供

4

新たな時代を迎えた横浜港(2010～現在) ～公社からYPCへ～

国の国際コンテナ戦略港湾政策のもと横浜港の国際競争力強化を目指し、公社は横浜港埠頭株式会社(YPC)として新たなスタートを切りました。現在は、会社分割により設立した港湾運営会社である横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)が横浜港と川崎港のコンテナターミナルの管理運営を担っており、当社は自動車・ライナーターミナルの管理運営などを行うとともに新たな事業として本牧ふ頭でのロジスティクスパーク事業を開始しました。

2010(平成22)年

京浜港(横浜港、東京港、川崎港)が国際コンテナ戦略港湾に指定される



2012(平成24)年

財団法人横浜港埠頭公社解散、
横浜港埠頭株式会社が業務を承継
12月に特例港湾運営会社に指定される

 記者発表資料 平成24年12月25日 横浜港埠頭株式会社

横浜港埠頭株式会社が特例港湾運営会社の指定を受けました

1. 概要
横浜港埠頭株式会社は、平成24年12月25日に、国土交通大臣より、港湾法に基づく「特例港湾運営会社」の指定を受けました。民の視点による効率的な港湾運営に取り組み、横浜港の国際競争力強化に努めてまいります。

2. 指定までの経緯
平成24年 9月12日 京浜港の埠頭群の区分指定告示
平成24年11月16日 特例港湾運営会社指定申請
平成24年12月25日 特例港湾運営会社の指定

(参考)
【特例港湾運営会社について】
港湾の国際競争力強化等を図るため、平成23年3月の港湾法改正により、国際戦略港湾等の運営に関する業務を一元的に担う「港湾運営会社」制度が創設されました。同法では、港湾運営会社は国際戦略港湾(京浜港・阪神港)ごとに1つに限ると規定されていますが、4年間の特別措置として国際戦略港湾の埠頭群を「特定埠頭群」に区分し、それぞれに「特例港湾運営会社」を指定することが可能とされています。

【会社概要】
設立日 平成23年7月26日
資本金 150億2900万円
所在地 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル4階
代表者 代表取締役社長 高島正之

以上

2011(平成23)年

横浜港の在来ふ頭の管理開始(指定管理者)
横浜港埠頭株式会社(YPC)設立



横浜市港湾局提供

2014(平成26)年

本牧D-4コンテナターミナル全面供用開始
(再整備によるリニューアル)



国際コンテナ戦略港湾政策とは

港湾の国際競争力を図るために「選択と集中」の考えに基づき、特定の港湾に重点的に投資することにより、日本に国際競争力のあるハブ(拠点)港を作ることを目指す国の政策です。2010年8月に京浜港(横浜港、東京港、川崎港)及び阪神港の2港が「国際コンテナ戦略港湾」に選定されました。国際コンテナ戦略港湾においては、その運営を担う「港湾運営会社」を指定し、民の視点による効率的な港湾運営の実現を図ることとしています。

2015(平成27)年

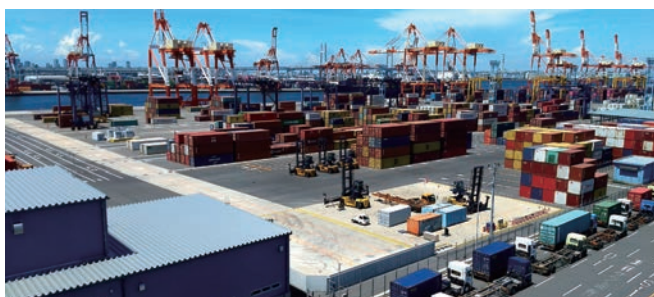
南本牧MC-3コンテナターミナル供用開始



MC-3供用式典／(一社)横浜港振興協会提供

2019(令和元)年

本牧D-1コンテナターミナル供用開始
(再整備によるリニューアル)



2021(令和3)年

- ・南本牧MC-4コンテナターミナル供用開始
- ・本牧A突堤ロジスティクスパークにて高機能物流倉庫稼働



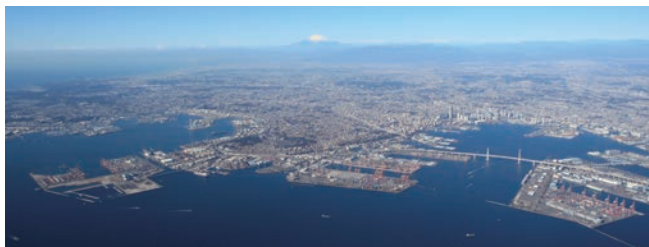
- ・株式会社横浜港国際流通センター(Y-CC)の株式取得、当社が筆頭株主になる



横浜市港湾局提供

2016(平成28)年

横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)設立、
特定港湾運営会社に指定される
コンテナターミナル運営事業を同社に移管



横浜市港湾局提供

2020(令和2)年

大黒C-3ターミナルを自動車ターミナルに転換



2022(令和4)年

大黒C-4ターミナルを自動車ターミナルに転換



川崎汽船(株)提供

将来に向けて

当社はターミナルの管理運営事業を中核としてきましたが、近年は本牧ふ頭A突堤のロジスティクスパーク事業や(株)横浜港国際流通センター(Y-CC)との関係強化など、ロジスティクス関連事業の充実・強化にも取り組んでいます。

当社では、これを事業の新たな柱の一つと位置づけており、横浜港および当社の中長期的な発展を目指し積極的に取り組んでいきたいと考えています。

～沿革～

当社の出来事

横浜港の出来事

1951年(昭和26年)		横浜市が横浜港の港湾管理者になる
1963年(昭和38年)		本牧ふ頭埋立着工、山下ふ頭完成
1967年(昭和42年)	京浜外貿埠頭公団設立	
1968年(昭和43年)		フルコンテナ船第一船 本牧ふ頭に入港
1969年(昭和44年)	本牧 A-8コンテナターミナル供用開始 本牧 A-7コンテナターミナル供用開始	
1970年(昭和45年)	本牧 A-6コンテナターミナル供用開始	本牧ふ頭完成
1971年(昭和46年)		大黒ふ頭、金沢地先の埋立事業着工
1974年(昭和49年)	本牧 A-5コンテナターミナル供用開始	金沢木材ふ頭完成
1977年(昭和52年)	大黒 L-1,2,3ライナーターミナル供用開始 大黒 L-4ライナーターミナル供用開始	金沢地先埋立完成
1978年(昭和53年)	大黒 L-6,7ライナーターミナル供用開始 大黒 L-5ライナーターミナル供用開始	
1979年(昭和54年)	大黒 L-8ライナーターミナル供用開始 大黒 C-1コンテナターミナル供用開始	
1980年(昭和55年)		横浜ベイブリッジ着工
1981年(昭和56年)	大黒 C-2コンテナターミナル供用開始 (財)横浜港埠頭公社設立	
1982年(昭和57年)	京浜外貿埠頭公団解散、 (財)横浜港埠頭公社 が横浜港における業務を承継	
1984年(昭和59年)	本牧 D-4コンテナターミナル供用開始	大黒ふ頭第1期埋立完成
1986年(昭和61年)	本牧 D-5コンテナターミナル供用開始	横浜港シンボルタワー完成
1989年(平成元年)		横浜ベイブリッジ開通
1990年(平成2年)	環境整備基金事業開始	南本牧ふ頭埋立着工、大黒ふ頭第2期埋立完成
1991年(平成3年)	建設発生土受入事業開始	
1992年(平成4年)	大黒 C-3コンテナターミナル供用開始	
1994年(平成6年)	大黒 C-4コンテナターミナル供用開始	
1996年(平成8年)		横浜港流通センター(Y-CC)オープン

2001年(平成13年)	南本牧MC-1,2コンテナターミナル供用開始	
2002年(平成14年)	大黒C-1ターミナルを自動車ターミナルへ転換	
2003年(平成15年)	大黒C-2ターミナルを自動車ターミナルへ転換	
2004年(平成16年)		京浜港(横浜港、東京港)がスーパー中枢港湾に指定される
2005年(平成17年)		京浜港(横浜港、東京港)が指定特定重要港湾に指定される 横浜港メガターミナル(株)が特定国際コンテナ埠頭の運営事業者として認定される 本牧BCコンテナターミナル全面供用開始
2007年(平成19年)	横浜港の公共コンテナターミナルの管理開始(指定管理者)	
2008年(平成20年)		横浜港、東京港、川崎港の広域連携強化に係る基本合意書が締結される
2009年(平成21年)	京浜三港(横浜港、東京港、川崎港)の入港料徴収業務(受託)開始	横浜港開港150周年
2010年(平成22年)		京浜港(横浜港、東京港、川崎港)が国際コンテナ戦略港湾に認定される
2011年(平成23年)	横浜港の在来ふ頭の管理開始(指定管理者) 横浜港埠頭(株)(YPC)設立	本牧新D-1岸壁供用開始
2012年(平成24年)	「特定外貿埠頭の管理運営に関する法律」に基づく指定会社に指定される 横浜港埠頭(株) が横浜港における業務を承継 特例港湾運営会社に指定される	
2014年(平成26年)	本牧D-4コンテナターミナル全面供用開始(リニューアル)	
2015年(平成27年)	南本牧MC-3コンテナターミナル供用開始	
2016年(平成28年)	横浜川崎国際港湾(株)(YKIP)設立 コンテナターミナル運営事業を同社に移管	
2019年(令和元年)		本牧D-1コンテナターミナル供用開始(リニューアル)
2020年(令和2年)	大黒C-3ターミナルを自動車ターミナルへ転換	新本牧ふ頭第1期地区着工
2021年(令和3年)	(株)横浜港国際流通センター(Y-CC)の株式取得、当社が筆頭株主になる 本牧A突堤ロジスティクスパークにて高機能物流倉庫稼働	南本牧MC-4コンテナターミナル供用開始
2022年(令和4年)	大黒C-4ターミナルを自動車ターミナルに転換	

～横浜港MAP～







発行

横浜港埠頭株式会社

〒231-0023

横浜市中区山下町2番地

産業貿易センタービル4階

2022年(令和4年)9月